

# 大腸内視鏡検査1000回を振り返って

丸岡医院 院長 丸岡 喬

2011年10月19日の検査で永井医院での大腸内視鏡検査が1000件を超えました。月に一度の交代診療ですので、毎回7~8件の検査を行ってきた事になります。ちりも積もれば山となると言いますが、いつの間にか・・・というのが実感です。私にとってそして患者さんにとって嬉しいのは、その間に大きな事故がなかったということです。例えば大腸ポリープを切除するポリペクトミー、簡単なように見えて実は難しい。外来でのポリペクトミーは特に安全性が求められます。看護師さんが事前に内服薬をチェックして、全身状態をチェックして、その報告を聞きながら出血の危険性が大きいのかどうかをまず判断します。あるいは腸に癒着はないのか、ポリープには茎があるのかないのか。これらを検査時にきちんと把握することが、出血や穿孔の予防にはきわめて大事なのです。茎がないけど大きさが大きい時は一回では取れないこともあります。またポリープがたくさんある時は初めから計画的に何回かに分けて取ります。安全のためには無理は禁物です。実際に切除するに当たっては、患者さんにいろいろ体位を変えてもらいます。これは非常に大事です。こうすることで難しい切除が簡単にできるのです。経験を積みれば積むほど事前の調整に万全を期すのです。急がば回れです。出血が見られるときは念のためクリップで止血します。茎のあるポリープでは前もってクリップしておくこともあります。看護師さんからの術後の指示は必ず守りましょう。

永井医院で検査を開始した当初は、進行した大腸がんも少なからず見られました。最近では便潜血で検査してポリープが発見されるケースが多いと感じます。ポリープから初期の癌が見つかることもあります。

便潜血検査はかなり有効な検査手段になっています。みなさんも検診をしっかり受けていただきたいと思います。最上町から大腸がんが亡くなる人が少しでも減るよう今後もがんばっていくつもりです。よろしくをお願いします。

